2021年6月27日　（毎週日曜日発行）　第4581号

カトリック新聞

戦後76年 戦争の悲惨さ伝える
新作能『長崎の聖母』

戦後76年。あの悲惨な戦争を忘れてしまったかのような日本社会を危惧して、近年、さまざまな反戦・平和への取り組みが見られる。沖縄戦や広島・長崎の原爆等の体験者は「語り部」となって「命の尊さ」を訴えているが、能楽師の清水寛二さんは、新作能『長崎の聖母』など、数々の作品を通して一人一人の「命」に向き合う〝空間〟を提供し続けている。8月の東京公演を前に、東京・港区の鉄仙会に清水さんを訪ね、インタビューした。

「被爆マリア」の能面を持つ能楽師、清水寛二さん

能は、室町時代（14世紀）に生まれた歌舞劇で、日本文化を代表する伝統芸術として世界に知られる。仮面（以下・能面）をつけた、美しい装束の演者によるセリフと舞。そして笛や小鼓・大鼓、太鼓による囃子と地謡（コーラス）が独特の世界観を織り成していく。

時空超え〝浦上〟へ

清水さんが演出とシテ（主役）を務める新作能『長崎の聖母』は、長崎の浦上が舞台。1867年に起きたキリシタン弾圧事件、「浦上四番崩れ」の現場であり、また第2次世界大戦で原爆が投下（1945年）された場所でもある。

物語は、「浦上四番崩れ」でキリシタンの流刑地となった島根県の津和野からの巡礼者が、かつて原爆で破壊された浦上天主堂を訪れ、一人の女性と出会う。「被爆マリア像」をほうふつとさせるその女性は、「原爆の悲惨を忘れるな」と語り掛け、全ての死者の平安を祈り、舞うのだった。

原爆をテーマにしたこの新作能が誕生するきっかけになったエピソードを、清水さんはこう語る。

「長崎で約20年前、ある人から『原爆をテーマに能をつくれませんか』と言われました。そこで能作品を手掛けていた多田富雄先生（免疫学者・文筆家）に相談しました。その時、多田先生が手にしたのが、戦時中に被爆した長崎純心高等女学校の生徒のことを描いた『純女学徒隊殉難の記録』。多田先生と2、3年やり取りをしながら『長崎の聖母』が生まれました」

『長崎の聖母』の初演は2005年11月、純心女子学園創立70周年と被爆60年の企画として浦上教会で上演された。これは、多田さんの新作能「戦争3部作」（沖縄・広島・長崎）の中の一つとして構成されている作品だという。

能面の内側は暗闇の精神世界

能の舞台で、さまざまな表情を見せる能面は、目と口に直径1センチほどの穴が空いている。目の穴からは演者自身の足元は全く見えない。能面によって演者は「精神世界」に閉じ込められるという。

清水さんは浦上教会での初演をこう振り返る。

「柱のない舞台で、しかも眼のふちに光が反射して見えず、舞台の端がどこなのか全く分からない中で演じ続けました。能面は、暗闇の中で〝内面の世界〟に入り込むことを演者に強いるわけです。演者を内面の世界に閉じ込め〝精神世界〟を見つめざるを得なくする。こうして演者は、任された役の『命』を表現するのです」

また、能の舞台は過去と未来の「交差点」だと清水さんは言う。一人一人の「個」を尊び、舞台の上で「個」の人生と生きざまを浮かび上がらせていく。そしてその精神性としては「表現すること」によって死者たちを慰霊し、霊魂を浄化するという側面がある。

その浄化作用は観客や演者にも及び、さらに「死者」から「生きる力」を得ていくのだという。非業の死を遂げた人々の慰霊の意味を込めた新作能『長崎の聖母』の初演は大好評だった。これが追い風となり、2015年には、「核拡散防止条約（NPT）再検討会議」が開催された米国のニューヨークやボストンでも公演することになったのだ。

そして、この公演の記録映像を見たオーストリア人の能楽研究者ディートハルト・レオポルドさんと清水さんが出会い、もう一つの新作能が誕生することになるのである。

それが、レオポルドさんが脚本を手掛けた『ヤコブの井戸』。イエス・キリストとサマリアの女が、「ヤコブの井戸」で水をくみ交したという新約聖書を題材に、民族の対立のない平和な世界を願う作品である。

こうして清水さんが演出・シテを務めることになった『ヤコブの井戸』は、『長崎の聖母』と共に2019年9月にヨーロッパの各都市で上演され、好評を博した。

能楽師としての自身の役割について清水さんはこう話していた。

「能の古典的技法で、社会問題など、今の時代を表現することができると思っています。原爆など理不尽な大量殺りくで被る『いのちの死』に向き合うことは大変苦しいことですが、その『死』と『いのち』に巡り合った者の使命として、舞台の上で表現していきたいと考えています」

8月4日から8日まで、『長崎の聖母』と『ヤコブの井戸』を東京の「座・高円寺」で上演。オンラインでのライブ配信もある。後援は長崎教区と東京教区など。詳細は、特設サイト（https://tessen-contemporary.com/2021）、または☎〇三3401二二八五まで。

新作能『長崎の聖母』の一場面（写真提供＝DEITz）